

【From Kobe 2017.4月】 2017年4月 春うらら 待ちかねた春到来 神戸春便り

1. 2017年4月 春うらら 待ちかねた春到来 神戸春便り
2. 森友問題ぶれている国会の「忖度」論議に 縄文の他利の精神を重ねて



地球温暖化の影響か 神戸の春の風物詩 いかなぎ漁が不漁で、街の話題にも上らずでしたが、春うらら 陽光に輝く須磨の浦では 名産「須磨海苔」の摘み取り作業が真っ最中 街には ジャズが流れ、街歩きを楽しむ人の笑顔がここかしこ 桜の開花が遅れ、やきもきしましたが、4月4日開花。 待ちに待ったうれしい春の到来です。

野山も里も草木萌え 生命観あふれるうれしい季節

街には新しい門出の若者たちの華やいだ声が響く 新しい出会いと出発に日々あらた 若者たちに「カー杯飛び出せ!! 」とエールを送りつつ、 好奇心もまだ旺盛 老いの毎日を元気に前向いて!! Stay Yang Day!! と



4月16日 イースター・復活日 がやってくる。「神とともに いまして」の思いも日々新た ちょうど庭では家内が種から育てた「アーモンド」の木が、久しぶりに花をつけ、アーモンドの香りが漂う春 厳しい時代に老いゆく中で、アーモンドの花言葉「希望」「愛」「優しさ」はうれしい。 病気克服や幾多の困難の中にある仲間や多くの人達に思いをはせつつ、 わが身の今を感謝し、世界平和 そして迫りくる老いに 今を元気にと祈る。

4月16日 イースター・復活日
花の香りが漂う春 胸膨らませ、
神共にいまして わが道を前向いてゆく
70の齢を越えて 思いは一つ
ただひたすら 希望の明日を信じて
世界平和を願いつつ、今のわが身に感謝し、
家族・仲間 そして世界の人々に思いをはせています

今春庭で花を咲かせた「アーモンド」の花



アーモンドの花の香りが漂う春
花言葉は「希望」「愛」「優しさ」



まだまだ元気 好奇心はある
仲間が頼りですが、今できることを精一杯
お互い元気で乗り切って行きましょう
体を大切に！今健康ならそれを維持し、
悪いなら、改善に努めそれが無理なら、助けを求めましょう。
ジョージカーリン「老いを楽しく」より



2017.4.5.
Mutsu Nakanishi from Kobe

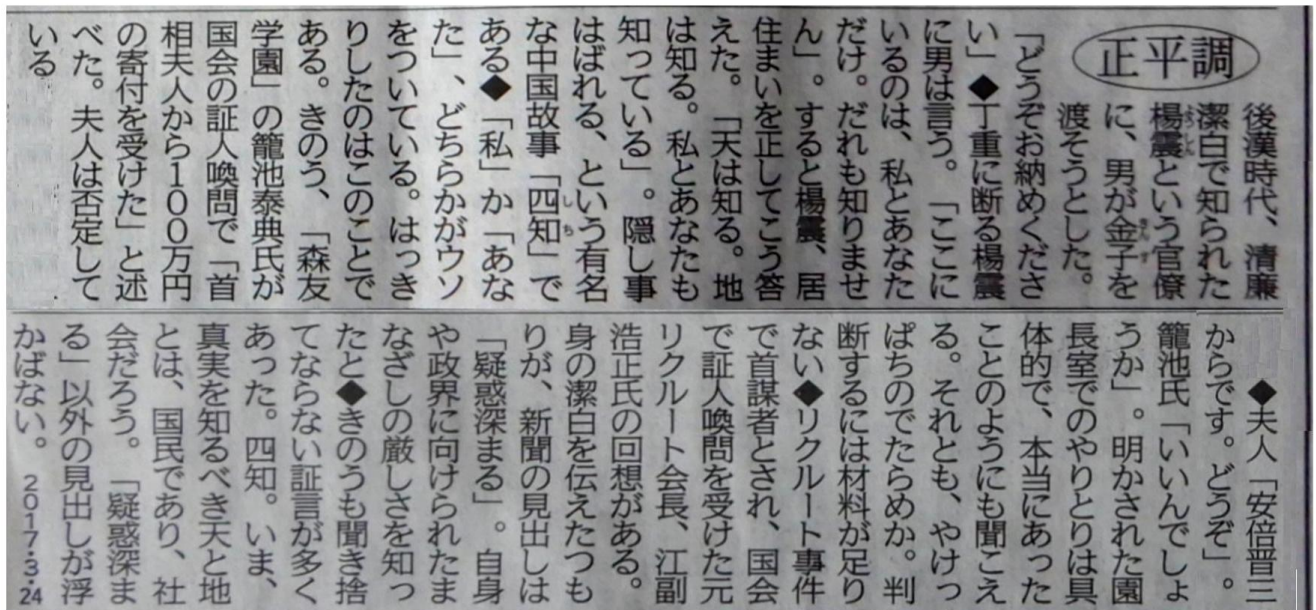
好奇心もまだ旺盛 Stay Yang Day!!

野山も里も草木萌え 生命観あふれるうれしい季節 お互い無理せず、元気に前向いてと。

2017.4.5. Mutsu Nakanishi from Kobe

2. 森友問題ぶれている国会の「忖度」論議に 縄文の他利の精神を重ねて

神戸新聞 2017年3月24日朝刊「正平調」



森友問題で「忖度」という言葉が、頻繁に出てくる。

国語辞典を引くと「忖度」とは漢和辞典によると「他人の心をあれこれと推し量る」という。

辞典に書かれた「忖度」の意味を見ると

「忖度」と日常耳にする「おもいやり・おもいやる」とは ほぼ同義とでもいえるように私にはみえる。

私は「他利の精神」が生きづく「縄文」を「日本人の心のふるさ縄文」「人をおもいやる心の縄文」などとよく紹介してきましたので、最近の政治の世界での「忖度」にはどうも腑に落ちない。



もし、同義ならば「忖度」などむづかしい言葉を使わず「おもいやり」と言葉を置き換えてみると、森友問題の発言ちして 国会議員が使っている「忖度」に大きな違和感がでる。そして その中味がよく見えてくる。

「忖度」発言の中に 本来含まれねばならぬ「他利」の精神が全く見えないのである。

安倍総理・自民党が「忖度はなかった」と答弁する。中味を「おもいやり」とすれば なんとおかしいことか……。森友問題そのものは「おもいやり」「忖度」の土俵で 議論されるべき事象ではないのである。

政治家はなにか やましいときに限って、むづかしい言葉を使う。

今回も「忖度」など聞きなれぬ言葉をめっちゃやたらに使い、「忖度があった」「忖度がなかった」という。

彼らの論拠を考えると彼らの「忖度」とは「利益供与」という言葉と置き換えるのが正確なのだろうか……。

うしろ暗さを隠そうとする国会議論。それだけやましいことが後に隠れていると見える。

不自然さと傲慢さがあまりにも露骨で、目を覆いたくなる。

時を同じくして 肩を痛めた稀勢の里が優勝をかけて戦った 14日・15日の取組のTV 画像。どんな印象をもたれたでしょうか？ 誰一人「(いわゆる)忖度が働いた」などという人はなし。みんなハッピーな気分になって喜んだのでは。でも 考えてみれば、取組の情勢からすれば、「忖度が働いた」などといちゃもんが付きかねぬ環境なのだ。

14日 土俵際 前へ出て、押し出した鶴竜が稀勢の里が、土俵から落ちぬよう体を支えた姿

それこそが「おもいやり・真の忖度」だと写る。

15日の照の富士の一番も 両者思い切りのぶつかり合い。ややこしいことを感じる暇のない相撲だった。

政治家の「忖度」とは やましきことと感じているからこそ、この言葉にかけているとみた。

使っている本人たちが この言葉で言おうとしていることは、本論とは別に、

何が何でも「利益供与がなかった」と言いたいのだが、正面からそれが言えず、隠したいのだと映って見える。

それこそ「利益供与があった」と言っているようなものだ。

おおよそ「忖度」の言葉とは かけ離れた場面での使われ方を誰も指摘せず、「忖度・忖度」と言っているようだ。

政治家やマスコミ・芸能人が出てくる場面で、よく見聞する下記の言葉にも同じニュアンスを感じる人が多い。

「あなただけに特別に・・・」 「(政治家・マスコミ・芸能人の)特権で・・・」 などと。

私自身もこれを言われたことが、何度かあるのですが、状況が許されれば、これを辞退することにしている。

まったく「おもてなし」の心を理解せぬオリンピック招致活動で使われた「お・も・て・な・し」の違和感もそうだ。

これらの裏には すべて相互利益の行動が隠されていて、狭い仲間意識・村社会の構図が隠されている。

まだまだ日本が未成熟な社会であることを思い知らされる事象にみえる。

昨今のアメリカ トランプ政権も同じで、安倍総理とトランプさんが近いのも そんなつながりか・・・。

昨今のそんな「忖度・おもいやり」の使われ方とはかけ離れて

約1万年もの長い永続社会を築いた「日本の縄文社会」の精神が、「他利」「おもいやり」「(真の)忖度」であり、また、人類が幾多の困難を克服して 生き延びてきた精神がまさにここにあった。

今世界で 日本の縄文へ目が注がれている。

今の政治家たちの薄っぺらな「忖度」論議には そんな広い心もなく、自己の利益に奔走す姿が見え隠れする。

森友問題 「忖度を受ける側」も「忖度した側」も 袖の下から「利益供与」が大きいのぞいている。

本来 この問題の本質を考えると この問題について、「(真の)忖度・おもいやり」が入る場面でないことは明白。

それだけに声高に「忖度」を使う政治家に後ろめたさがついてまわっていると感じるのは、わたしだけか・・・。

勝手な年寄りのボヤキと うつるだろうなあ・・・とおもいつつ ついブツブツ。

「日本人の心のふるさと 縄文」縄文の「他利・おもいやり」の精神に今こそ日本人みんなに気づいてほしい。

また、日本人の心の故郷 縄文を世界の人たちに知ってもらいたい

一万年も平和で豊かな生活が続いた 世界に類のない日本の「縄文」そのエンジンは「他人を思いやる心」

北東北・北海道の縄文遺跡を コネスコ世界遺産に

《「和鉄の道・Iron Road」 by Mutsu Nakanishi 》

日本人のふるさと 縄文 縄文の心を映すストーンサークルを訪ねる

<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomonslide.htm>

1万年も続いた世界にも類例のない平和な永続社会

その原点には何があるのか… どのように映るでしょうか・・・



2017.3.24. from Kobe Mutsu Nakanishi